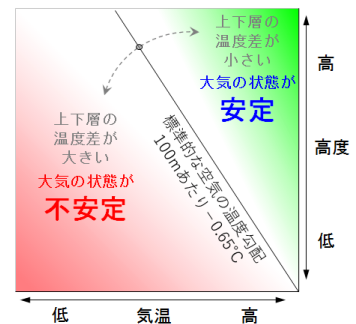


## 【11月の気象】

- ▶ 11月は、秋から冬への季節の変わり目で、天気は周期的に変化する時期です。西高東低の冬の気圧配置になると、大陸から寒気が流れ込み、北西の季節風が吹きます。移動性高気圧に覆られると、朝晩は冷え込みますが、日中は風も弱く、暖かく穏やかな晴天（小春日和）になることもあります。
- ▶ 松山における10年間の冬の季節現象 (<https://www.jma-net.go.jp/matsuyama/kisetsu/kisetsu.html>) によると、11月半ばを過ぎると、早い年では、初冠雪、初霜、初雪、初氷を観測しています。
- ▶ 10月に続き、11月も降ひょうによる農作物への被害が過去に発生しています。2006年11月11日未明、瀬戸内海付近に南下した前線に向かって南から温かく湿った空気が流入し、大気の状態が不安定となり、中予や東予でひょうが降り、柿、キウイフルーツ、柑橘類などへ被害がありました。

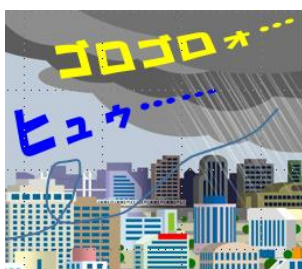
## 【気象用語】「大気の状態が不安定」とは

地表から上空10～16kmまでの大気層では、右図の黒線で示すように高い所ほど気温が低くなっており、地表に近い下層の暖かい空気は上へと昇り、上層の冷たい空気は下へと降りるといった対流があります。そこへ、低気圧や前線等の影響で大気下層に暖かい湿った空気が流れ込んだり、寒気を伴う上空の気圧の谷や寒冷渦（寒冷低気圧）が接近して上層に冷たい空気が入ることで、上層と下層との温度差がより大きくなり、対流活動が強まります。この状態を「大気の状態が不安定」といいます。

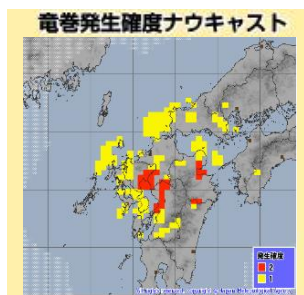
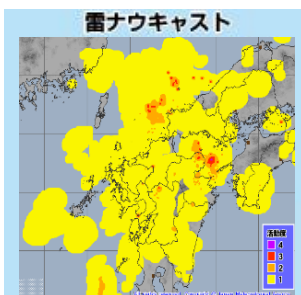
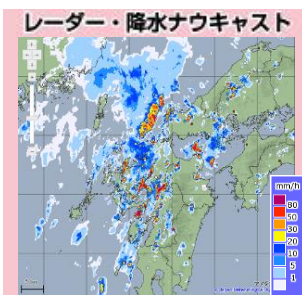


大気の状態が不安定なときは積乱雲が発生・発達しやすくなります。積乱雲は、急な強い雨（局地的大雨）による急激な川の増水、低地の浸水、落雷、ときには竜巻などの激しい突風や降ひょうなどの現象をもたらします。

屋外で積乱雲に伴う災害から身を守るためには、まずは外出前に[雷注意報](#)や[竜巻注意情報](#)が発表されていないか確認するとともに、[天気予報](#)や[天気概況](#)、[気象情報](#)も確認してください。雷注意報が発表されていなくても、「雷を伴う」「落雷」「大気の状態が不安定」「急な強い雨」「竜巻などの激しい突風」「降ひょう」などの言葉が使われていたら天気の変化に留意してください。



雷注意報や竜巻注意情報の発表中は、強い雨、雷、竜巻に関する最新の状況を気象庁ホームページの[ナウキャスト](#)や[高解像度降水ナウキャスト](#)でこまめに確認するとともに、天気の急変にも注意してください。黒い雲が近づいて周囲が暗くなった、冷たい風が急に吹いてきた、大粒の雨やひょうが降り出した、雷鳴が聞こえた、電光が見えた、といったときは、発達した積乱雲が迫っているサインです。開けた場所や水辺から離れ、頑丈な建物など安全な場所へ速やかに避難してください。



高解像度降水ナウキャスト



高解像度降水ナウキャストでは、5分ごとの降水の様子と1時間先までの降水の予想を表します。さらに、雷活動度4と竜巻発生確度2の領域も重ね合わせて表示することができるので便利です。